

スタッフニュース



◀見返り美人図



◀菱川師宣自画像(部分)



◀菱川師宣記念館

千葉県ゆかりの人物をたずねて 浮世絵の先駆者 菱川師宣

菱川師宣(ひしかわ もろのぶ/1630 ころ~1694)は、安房国保田(現在の安房郡鋸南町)で誕生しました。幼いころより、縫箔刺繍(ぬいはくししゅう)を業にする父の手伝いをして、下絵を描くかたわら、土佐派など日本画各流派の絵や漢画に接し、その画法を吸収しました。その後、江戸に出た師宣は、江戸庶民を題材とした風俗画を描くことを心がけ「見返り美人」に見られるような、即時の女性美を追求し「浮世」と呼ばれた当時の世相にマッチした新しい絵画様式を確立しました。町人の好む美意識と、上方の伝統文化とは異なる時代に美人画・役者絵・名所絵・行楽図・枕絵など、浮世の楽しみを描く風俗画の絵師として、40歳ころには名声を得ていたと言われています。

生誕の地を記念して、鋸南町には菱川師宣記念館が建てられています。「見返り美人図」など、約200点の師宣の作品や資料が展示されているほか、歌川広重・国定など後の浮世絵師の作品も展示しながら、浮世絵の歴史や江戸庶民の風俗も紹介しています。

菱川師宣記念館ホームページ <http://www.awa.or.jp/home/kyonankk/kinenkan.htm>

第59回千葉県公民館研究大会を開催



11月15日、「いま、公民館に新たな息吹を！～人と地域社会に豊かさを求めて～」をテーマに、市川市行徳文化ホールと行徳公民館を会場として、第59回千葉県公民館研究大会を行いました。この大会には県内の公民館職員や公民館運営審議会委員、社会教育関係者など、382人が参加。午前の部の記念講演「高座と講座 人の心を結ぶ笑いとコミュニケーション」では、落語家の古今亭菊之丞さんによる「初天神」「火焰太鼓」の2席の披露があり、軽妙な語り口に会場全体が和やかな雰囲気に包まれていました。

午後の部では「公民館運営審議会の活性化」「団体やサークルの育成・支援のあり方」「子育てと家庭教育の支援」「公民館職員入門」「公民館の管理運営」「事業に活かす人権の視点」「2007年問題と公民館」「地域づくりと公民館事業」「子ども・青少年の居場所作りと公民館」「公民館事業と評価」の10の分科会に分かれ、各分科会ともそれぞれの研究テーマに則っ

初任職員研修会 はじまる！

新しく公民館に配置となった職員が対象の「初任職員研修会」が、10月16日からスタートしました。研修会に先立つ開講式では、朱躰寺県公連会長から「みなさんには、まず笑顔で住民に接していただきたい。いろいろと厳しい状況の中で、どこもモノ・カネは少ないわけですが、知恵をしぼりあう仲間づくり、横のつながりづくりに、この研修会を役立ててください」、また初任職員研修会を運営する県公連研修委員会の高瀬委員長から「この研修には、公民館の歴史や法制、理論と実践など、いろいろな内容を盛り込んでいます。参加者のみなさんが主体的にかかわる機会が多くあり、討議がメインになります。研修を通じてみなさんには大いに疑問を感じてほしいし、その疑問を元に自由に議論していただきたいです」と、それぞれあいさつがありました。



て活発な討議が行われました。

来年の第60回千葉県公民館研究大会は、第49回関東甲信越静公民館研究大会（＝関ブロ）とあわせて開催します。日程は、平成20年8月21日（木）～22日（金）の2日間、メイン会場を千葉市市民会館、サブ会場を千葉市生涯学習センター・千葉県教育会館として予定しており、準備もすでに始められています。ちょっと気が早いかもしれませんが、地元千葉で開催される関ブロを、みなさんの来年度の予定に入れておいてください。



▲みんなそろって、ハイ！チーズ

これに引き続いて行われた研修の1コマ目は「公民館職員のためのレクリエーション」。講師の木更津市立中郷公民館・山下さんの導きで、最初緊張が見られた参加者からも笑顔がこぼれていました。

この初任職員研修会は、来年2月5日まで月1回のペースで全5回開催されます。内容を見ると、どの回も気が抜けそうにありません。38人の参加者のみなさん、最終回までどうかがんばってくださいネ。

主事部会第115回研修会 公民館事業の企画と進め方

9月27日に、第115回県公連主事部会研修会が、千葉市にある千葉県総合教育センターで開催されました。この研修会では、講師に国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官の立田慶裕さんをお迎えし、千葉県内公民館職員計52人が受講しました。

今回のテーマは『公民館事業の企画と進め方』。住民の学習機会を提供する場である公民館にとって、それぞれの地域にある問題解決のために、それぞれの地域に合った企画をどう打ち出すか、またその事業についてどのように組み立て進めていけば良いのか、立田さんならではの視点から考える、ユニークな「立田揚げ話法」（立田さん自らが名づけた話法）で、企画づくりのヒントを伺いました。

研修の流れとして、まず「アイス・ブレイク」。向かいあって座る受講者のお互いの似顔絵を描き、良い所など第一印象を記入しご本人にプレゼントする、というもので、まさかと思うほど短時間で打ち解けることができました。その後、休憩・講義が行われました。

それぞれの地域に合った企画づくりの基本は、やはり住民の声を聴くことです。そのためには、住民一人ひとりの名前をきちんと覚え、コミュニケーションを図ることであると、立田さんは強調していました。

事業の進め方では、

①つかみ…住民が興味を持つ実習を盛り込み、学習意欲を高める。

（親密性・創造性・共感性・体験・明解性）

②なかみ…目に見えて変化したと感ずることができるよう、中身を充実させる。

（変容性・多彩性・刺激・物語力）

③まとめ…「ふりかえり」をしっかりと行う。

（密度・速度・容量などの全体のバランス）

上記3ステップをうまく取り入れることで、内容が



講師の立田さん

充実し、面白さと発展性のある講座になるということでした。さらに必要なものとして、10の要素（①～⑩のかっこ書き部分）が挙げられています。

今、格差社会が世界規模の重大な問題として取り上げられています。身近な所で「地域間格差」も生まれているそうです。その原因として、住民には「学ぶ人は次々と学び、学ばない人はどんどん学ばなくなる」という傾向があることを提示しておられました。解決の第一歩としては、問題の共有化を図ること。地域の問題を自分の問題としてとらえ、一人ひとりの考える意欲を高めることができます。そして、人それぞれが持つ知識を共有化し、新たな大きな力となって地域間格差はなくしていくことができるのです。

地域住民が本当に望んでいる講座を開くためにも、私たちは住民から素直な心で学ぶことがとても大切だと、改めて感じることができました。

「地域に根ざした公民館事業」は、住民の声がきちんと反映された事業であると言えるでしょう。充分な話し合い（コミュニケーション）をすることで、しっかりとした基盤づくりができれば、おのずと課題が見えてきます。企画づくりもそれほど難しいことではないのかもしれません。公民館事業は職員が与えるものではなく、地域全体でつくるものなのです。

館長部会研修会 私の公民館経営論

今年の館長部会研修は、8月23日、銚子市市民センターを会場に開催されました。この研修会では「私の公民館経営論～団体育成としての社会教育法23条を考える～」と題し、元・千葉県公民館連絡協議会副会長の佐藤りゑ子さんから、経験に基づいた貴重なお話をいただきました。

佐藤さんは“公民館の特徴を活かす”として、まず公民館が持つ、地域性や集団としての学習をあげています。他の生涯学習機関が指導者と学習者の一対一の関係が多いことに対して、公民館は自分の住んでいる地域との関わりも含め、縦横の人のつながりを重視した「共に学ぶ」ということを大切にしている印象を受けました。教科書で教えるのではなく、学習者同士の語り合いを通して学び合い、答えを探していく。そ

のプロセスにこそ、重要な意味と答えがあるのでしょう。しかしながら行政改革を考えるときに、評価の焦点は学びのプロセスの重要性には当たりにくいかもしれません。ただ「効率だけでは、人は育たない」という言葉が、胸に響きました。

また社会教育法第23条の取り扱いは、概ね多くの自治体で共通しているようです。その中で営利に関しては、地域性を考慮した上で社員教育等、直接営利と結びつかないと判断できれば、施設を使用することは問題ないのではないのでしょうか。また団体についても、指導者と住民のどちらが主体であるのかをよく見極め、公民館の運営について丁寧に説明し、理解してもらうことが大切なのではないかと感じました。



栄えある受賞、おめでとうございます

今年度の優良公民館表彰（所管・文部科学省）に、千葉県から野田市中央公民館の表彰が決定しました。また、平成19年度千葉県教育功労者（団体の部）として、木更津市立富来田公民館が、さらに第30回全国公民館研究集会（兼第48回関東甲信越静公民館研究大会）において次の方々表彰されました。

第60回（平成19年度）優良公民館表彰

野田市中央公民館

受賞理由 地域住民の生涯学習の拠点として、地域の特性を生かした多様な活動を行っており、特にシニア世代を対象に地域参加支援事業に取り組んでいる。また、夜間や休日の開館を増やすことで、利用者の利便性の向上を図っている。

千葉県教育功労者（団体の部）

木更津市立富来田公民館

受賞理由 地域の特性を生かした多彩な公民館主催事業（古文書講座・富来田地区の歴史をテーマに企画展など）や公民館だより「ふくた」の発行に取り組み、またサークル活動をはじめとする住民交流の中心的な機関として貢献している。

公民館優良職員表彰

鈴木美佐子さん

（千葉市轟公民館主査補 勤続28年2カ月）

受賞理由 長年にわたり様々な世代を対象とした事業に取り組み、千葉市公民館活動に寄与。一方、8年間にわたり千葉県公連の公民館研究委員会委員として、調査研究を重ね、研究報告書の編集・発行に貢献した。

永年勤続職員表彰（勤続15年）

斉藤秀雄さん（千葉市幕張公民館副館長）

柏崎 清さん（船橋市東部公民館主幹）

熊川利幸さん（元・浦安市富岡公民館館長）

古川好男さん（袖ヶ浦市根形公民館副館長）



受賞者の声 公民館と私

千葉市轟公民館 鈴木美佐子さん

公民館勤務18年目（公民館類似施設勤務がプラス10年、だそうです）の今年、思いがけず全公連の表彰を受けることになり、とてもありがたく思っています。

公民館の職員になったらまず、自分の公民館の地域のことを知らなければならぬと、先輩に言われたものです。いざ、職員になってみるとなかなかできることではありません。轟公民館勤務になって6年目を迎え、今あらためて公民館のあり方を考えてみると、轟地区の歴史と重なる部分が多くあるように思います。

戦後の町の復興のため、多くの傷ついた人々の心を立て直すためには、教育が必要だということで公民館は全国に建設されました。轟周辺の地域は戦争中「軍隊の町」といわれるほど多くの軍事施設が存在していたとのこと、轟公民館はまさに戦後の復興のために、地域の方々が力をあわせて活動する場であったのです。

公民館は、いまやカルチャーセンターのように、活動する人たちは自分の楽しみのため、楽しいこと・おもしろいことをする場になってはいないでしょうか。戦後の豊かさは大人が真剣に学ぶことを忘れさせてしまったのではないのでしょうか。今さまざまな問題を抱えながら生きている私たちは、毎日楽しい事ばかりでは生きられないのです。環境問題、食への不安、老後の心配、働かない・働けない青少年、さまざまな問題を抱える社会について、地域の方と共に学び続けたいと思っています。

▶ ホテル東天光の外観



宿泊研修会は1月22日～23日

主事部会第116回研修「宿泊研修会」は、白子町のホテル東天光を会場に、平成20年1月22日（火）～23日（水）の1泊2日間の日程で開催します。今回のテーマは「公民館とは何か ～いま改めて、その機能と役割を考える～」とし、東北大学教育学部准教授・石井山竜平さんによる「公民館の可能性を探る ～その現代的課題と今後の行方～」と題する基調講演などを予定しています。ぜひご参加ください。詳しくは、別送の開催要項をご覧ください。

館長

一翼を担う

南房総市丸山公民館 館長 鈴木建夫さん

丸山の公民館は、小さな地域の公民館ではありますが5講座・7教室・26サークルと、その他様々な出前講座やイベントなどを実施し、地域住民の文化と生きがいづくり・生涯学習の一翼を担っています。11月には地区をあげての文化祭が開催されました。

南房総市は、6町1村が合併してできた街です。合併2年目の今も、各町村にあった公民館はそのまま存続され運営されています。しかし、厳しい市財政の関係で静かに密やかに中央公民館と分館体制が進められているようです。

大合併に伴い、公民館のあり方を行政が一方的に執り進めることは考えものです。公民館は社会教育法に基づき市町村に設置され、住民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種事業を行う施設です。

現代社会の様々な事件・出来事を振り返ってみる時、学校教育にだけその責任を押しつけるわけにはいきま

せん。社会教育にこそ、その対応を迫らなければならない事が多々あります。地域住民の主体的な活動意欲によるところが大ではありますが、公民館の方から呼びかけたり、イベントを企画することも意義ある重要な活動です。

公民館の人員を減らし活動を縮小させることで地域の活性化は図れません。少子高齢の地域が益々沈滞化してきている今日、活性化は急務の課題です。人減らしや閉館など後向きに対策を立てるのではなく『ご近所の底力』的発想で前向きに対策を立てるのも大切です。地域の人々が生き生きと生活できる地域づくりに、そして活性化に公民館は大きな一翼を担うものと考えているのですが…。



公民館スタッフのつぶやきコーナー



▶ 右端が浅野さん

職員

町を担う子どもたちのために

大多喜町立中央公民館 主任主事 浅野健二さん

「公民館に異動したの！良かったじゃん！」半年前はこんな会話から始まりました。

申し遅れました、今年度から公民館に配属になりました浅野と申します。みなさんよろしく願いいたします。

正直に申しあげまして、人生30余年公民館を利用したことはほとんどなく、どんな仕事をしているのかもあまり考えたことはなかったのですが、今は「いつでも、誰でも、何にでも挑戦できる生涯学習」の現場を肌で感じ、やりがいと責任を感じて日々がんばっております。

さて、半年程が過ぎ私の担当している青少年相談員活動事業の一つ、「青少年のつどいキックベースボール大会」を夏休みに経験しました。ひたむきにプレーす

る子どもたちを見て、自分たちが真剣に取り組むことで必ず応えてくれるんだなと感じ、改めて教わることも多々ありました。

また「おいでよ子ども土よう塾」と題し、博物館・資料館の見学や勾玉づくりといった、様々な体験学習のプログラムを考え事業を行うことにより、子どもたちと一緒に目線に立ち、考えていることや思っていることを語り合い、自分も一緒に勉強させてもらっているところでもあります。

まだまだ、公民館を利用してくださる人が限られていて、PRもしていかななくてはなりません。参加しやすい教室や魅力ある事業を推進し、ホスピタリティーな気持ちで出迎え、たくさんの利用者で賑わう公民館を目標に仕事に励んでいきたいです。

スタッフ伝言板 まちより むらより、

産業文化祭「文化の部」を開催 大網白里町中央公民館 TEL 0475-72-0698

これまでの産業文化祭「文化の部」は、中央公民館で作品展を、保健センターでステージ発表を開催していましたが、今年度は昨夏にオープンした「大網白里アリーナ」に会場を移し、作品展とステージ発表を併せて開催しました。

初日は郷土芸能保存会の協力により、郷土芸能発表会が行われ、江戸期には学僧800名以上の規模を誇った宮谷檀林・本國寺（県指定史跡宮谷県庁跡）に伝わる歌「宮谷坂」や、九十九里地域で発達した鯛の地曳網漁の際に唄われた「九十九里地曳大漁節」の軽快なリズムにあわせ、網を曳き魚を運ぶ様子を再現した踊りを披露しました。また、慶長年間から伝わると言われる獅子舞（町指定無形文化財）の発表では、女の獅子舞が登場する「お染獅子」が披露され、来場者の注目を集めていました。

2日目には、一般参加の24団体・約250人により、舞踊や民謡、楽器演奏などのステージ発表を開催し、盛況のうちに幕を閉じることができました。

作品展ではパネル約150面、テーブル約50台のほか卓球台24台を展示スペースとして展開し、公民館の内



外で学習に励む32団体・約500人が参加。日ごろの学習成果を発表しました。絵画や書道・陶芸・手芸などのほか、クラフトバンドや樹脂粘土人形など、新しいジャンルの出展が増加したことも特徴でした。

会場が体育館となったことで、水の使用など場内での制限事項が多く、華道や盆栽などの参加が危ぶまれましたが、床面にビニールを敷き、さらに養生シートを張るなどの対策を施し、ほぼ例年並みに開催することができました。ところ変われば…で、新しい課題も発生しましたが、これからは様々な学習場面の提供を図りたいと思います。

「楽しい」この一言が励みに 東部子どもひろば

野田市東部公民館 TEL 04-7122-4202

「ウワー冷たい!」「このサカナ、泳ぐの速くて捕まらないよ〜」と、子どもたちの歓声が小雨の中に響きます。「ダメダメ!そんなおっかなビックリじゃ捕まるわけないだろ」「そお〜っと、角に魚を追い込むんだよ!」とは大人たちの声。これは、野田市東部公民館が9月29日に開いた「やってみよう!つくってみよう! 東部子どもひろば ~まるごと一日子どもの日」の中の特別企画「ニジマスつかみ取り」での一コマです。

昨年は子どもたちが対象のそば打ちをはじめ、アートキャンドルづくり、ガラス工芸などを内容とした「子ども遊学館」という講座を開催しましたが、「どうせやるんなら、今年は公民館を一日子どもたちに開放して、大人が学んでいる公民館事業を体験させよう」と計画しました。この日の講師のみなさんは、普段は大人に教えている人ばかり。「子どもたちに公民館の主催講座の中で楽しめるもの。1時間以内で完成できるもの」として協力をお願いすると、快く承諾。早速、子ども向けにアレンジをした内容を提供していただきました。



▲ニジマスつかみ取り



▼ステンドグラス

「お菓子の館」と銘うった調理室では、ピザ・クレープ・ゼリー・あんみつづくりの4コースが。創作コーナーでは、ボトルクラフトやステンドグラス、ガラスの彫刻、レザークラフト、染色などなど。お昼は料理教室の先生を中心に調理したカレーをパクついたり。あいにくの雨模様でしたが、子どもたちはさまざまな体験をして大喜びでした。

「楽しかったぜ!またやってくれよな!」子どもたちのこの一言が、職員の励みとなります。

持ちより 公民館だより

セカンドライフ支援セミナー 定年後のライフスタイル発見講座

成田市中央公民館 TEL 0476-27-5911

定年退職を迎える“団塊の世代”と呼ばれる人々が何か新しいものに取り組むきっかけになれば、という趣旨で平成18年度から始まったのが、セカンドライフ支援セミナーです。今年度は6月から12月までの全9回シリーズで、ヨガ・ウォーキング等健康に関するもの、成田山新勝寺・地域の古墳・伊能歌舞伎という地元の文化財、その他にはオカリナの演奏・そば打ち・ボランティア活動についてなど、内容は多岐にわたっています。全9回のうち希望の講座のみでも申し込み可として募集したところ、どの講座も40～50人もの応募があり、関心の高さがうかがえます。

地域の古墳の講座では、自動車で走り過ぎるような場所を歩いてみたり、また山林の中の古墳など、説明を聞きながら見学をしました。いつも自動車から見ていた何気ない地面の膨らみが実は古墳であったり、埴



輪の破片が拾えたりというように、歩いてみることによって新しい発見が多くありました。また古墳に限らず文化財というものが、実は身近に多く存在しているということも確認できる内容で、大変好評でした。これをきっかけに地域の文化財のサポーターとなり、郷土史の研究を始めたり、保護活動やボランティアガイド等の活動に発展し、充実した過ごし方を見つけてもらえれば、と期待しています。

七人の侍「まちなみ塾」 君津市上総公民館 TEL 0439-27-3181

久留里線久留里駅下車徒歩1分に位置する君津市上総公民館を訪ねたところ「まちなみ塾」を主宰する塾長の白熊大さんは、開口一番「民意を持ち上げ上総地域の活性化を図る。予算なしでも地域の力で動き働けば結果がついてくる」と笑顔で迎えてくれました。

まちなみ塾は3年前、地域の方々の発案で公民館の教室や講座の先を見通した松下村塾（吉田松陰が主宰した私塾・のちに幕末、維新时期に活躍した志士を多く輩出）のような塾を、上総公民館を拠点に創ろう、ということからスタート。上総公民館の基本方針である「地域に根ざした公民館・地域交流と親ぼくを図る場」とも、オーバーラップし、現在も着々と活動の場を広げています。

3月に行った鄙（ひな）の祭りでは、参加者に手作りの木製参加札をチケットとして購入してもらいました。これは地域の散策や、久留里の名水で仕込んだ新酒を特製枡で賞味する際の通行証のようなもので、地元酒蔵の酒かすなどもお土産として付いたそうです（鄙は”雛”をもじったもの）。ここでいい意味でのクレームが付き、ひな祭りだけではなく、男の子の祭りも開催してほしいということになって”鄙びた街の端午の節句”として5月に「鄙（ひな）の端午展」を実施する事に。地域商店街の34店舗が参加、赤いス



テッカーを目印に店舗を巡り、各所に飾られた端午の節句の祝い飾りを見物できるイベントとなりました。

7月には行灯作り講習会を、8月に行う打ち水イベントの準備を兼ねて行いました。そして8月には「第2回打ち水・久留里の夕涼み」。打ち水を通して、地球温暖化の問題に目を向け、レトロな



▲打ち水の様子

街並み久留里の夏を楽しんでもらおうという企画です。打ち水は久留里商店街の上総掘りの井戸水。併せて夕涼みビアガーデン（石造り倉庫が会場）を開催、大好評を得ました。また9月には「第2回久留里まちなみコンサート酒蔵シャンソンの夕べ」と題し、歴史ある酒蔵を会場に音楽を堪能しました。

12月にも「第3回まちなみコンサート」と「食べて元気 ふるさとの料理・食の文化祭」を企画しています。地元で生産される野菜・果物・料理・乾物・漬け物を目玉に、地区の活性化と食文化振興、観光資源の発掘と育成を目指します。

公民館を拠点とした活動が、地域に浸透し信頼を受け、大きな力となって地域に還元される…。「まちなみ塾」の、今後のさらなる活躍が期待されています。



シリーズ・県内の
元気館

**生きがいをもって
暮らせる地域社会
づくりを目指して**
睦沢町立中央公民館
Tel. 0475-44-0211

睦沢町立中央公民館は、地域のみなさんが気軽に話し合いをしたり、学習などを行う場として、昭和50年4月に開館しました。現在、公民館自主事業として「子ども料理教室」や「太巻き寿司作り教室」など12の教室を開設しています。また「絵手紙サークル」や「パッチワーククラブ」など、32の自主サークルグループが活動しています。

子どもたちは地域の宝

睦沢町立中央公民館では、多くの子どもたちに公民館を利用してもらうため、様々な事業を開催しています。

・流しそうめん体験

8月の暑い中、公民館の中庭を使い、流しそうめん体験を行いました。参加した子どもたちは、小刀で自分が使う箸と器を竹で作ります。小刀を初めて持つ子どもたちが多く、持ち方や力の入れ方を指導し、自分だけの箸を作りました。全長25mの流し台から流れてくるそうめんを器用に箸ですくい、涼しげに食べる子どもたちは、笑顔であふれていました。

・通学合宿

10月。町内の小学5年生を対象に3泊4日の通学合宿を行いました。日中は学校で通常授業を受け、夕方には公民館で、自分たちで考えたメニューにそって、大人の力は借りずに夕食を調理し、食べました。食後には天体観測や茶道体験など、ふだん体験できないプログラムを組み入れました。

・房総子どもかるた大会

千葉県を紹介する、おなじみの房総子どもかるた。3人一組のチームで、44枚のかるたを1枚でも多く取った方が勝ちです。読み手の声に会場全体が集中する

瞬間は、まさに戦いを感じる瞬間です。公民館では町内各地区の対抗戦で、夏休みと冬休みの年2回、大会を行っています。

育もう！ 伝えよう！ 睦沢の文化

・ふるさと芸能発表会

1年に1回、公民館で自主サークル活動をしているみなさん、また各地域での伝統芸能を受け継ぐみなさんの発表会です。

日舞・フラダンス・社交ダンス・和太鼓・ストリートダンス・お囃子など、1年間学んできたことを舞台上で表現し、地域のみな



▲小・中学生の音楽発表の様子
さんに見ていただこうと、日ごろの成果を思う存分発揮していました。

・創作美術展

公民館の各教室やサークルおよび一般参加により、11月上旬の4日間、創作美術展を開催します。公民館に隣接する、ゆうあい館のホールをいっぱいを使い、書道・パッチワーク・陶芸・押し花・絵手紙など、日ごろから錬磨された技術と、制作者の思いが込められた素晴らしい作品の展示発表会です。

また和室では、お茶会の無料体験もあり、参加者は初めてふれる茶道の奥深さに感心していました。

ちばけん公民館スタッフニュース 第95号

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員会

委員長：稲岡 正道（浦安市当代島公民館）

〒279-0001 浦安市当代島2-14-1

Tel. 047-382-1700 Fax. 047-382-1705

発行：千葉県公民館連絡協議会